

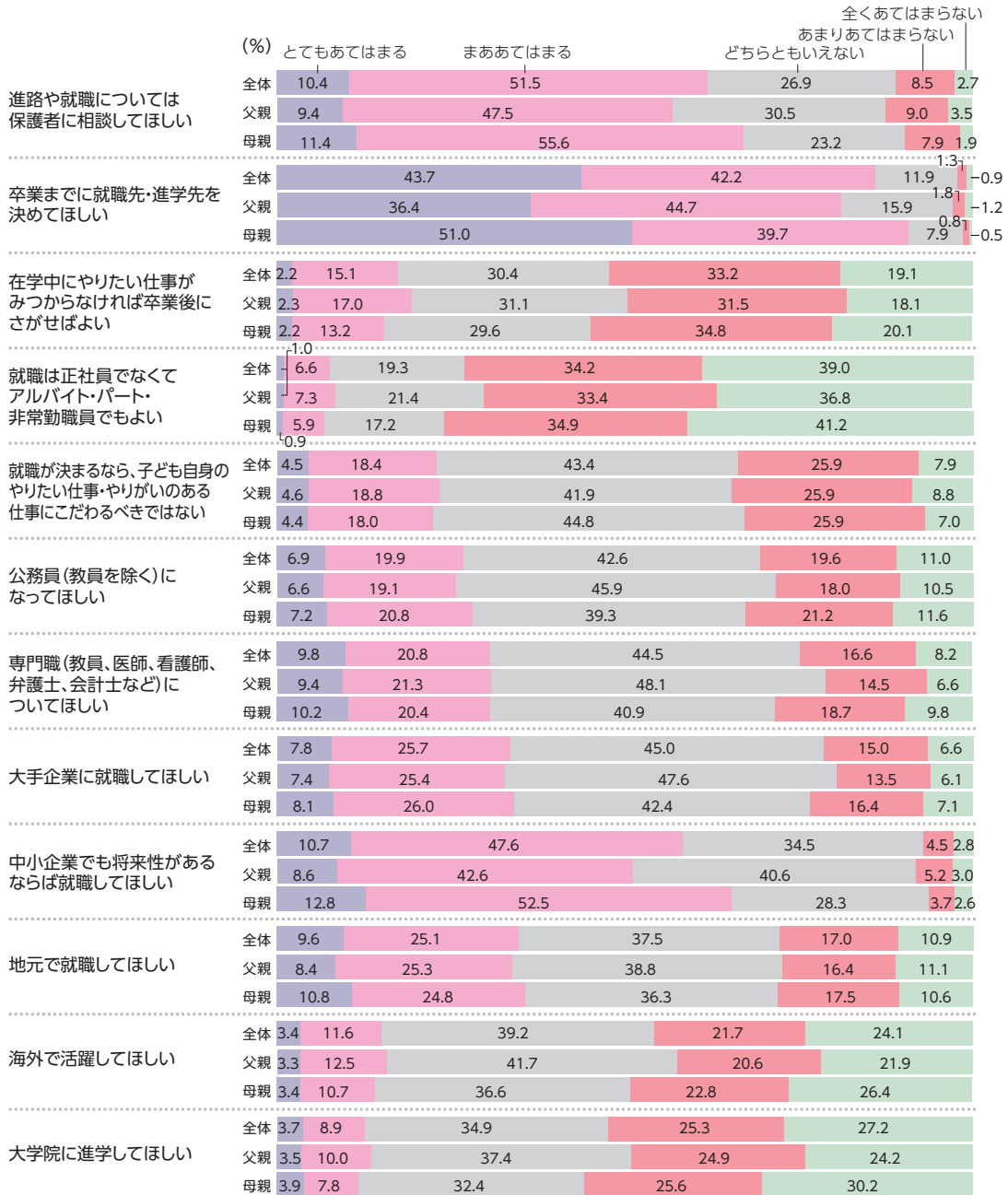
⑪ 就職・進路に対する保護者の意識

子どもに「海外で活躍してほしい」と考えている保護者は15.0%、否定的な保護者が45.8%。

Q

お子様の大学卒業後の進路や就職に関するあなたご自身のお考えとして、あてはまるものを1つ選んでください。

図 11-1 子どもの卒業後進路に対する保護者の考え(1~3年生の保護者・全体・父母別)



注) サンプル数は全体4500名。うち父親2,250名、母親2,250名。

⑫ 就職・進路選択への関与

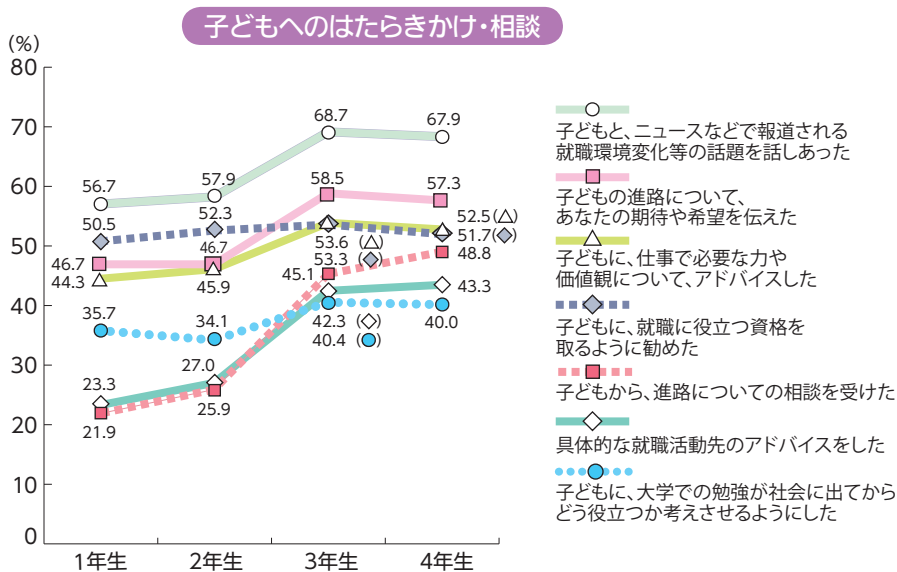
4年生の保護者の4割が子どもの進路に関する情報収集をしたと回答。
一方で、就職に関して親ができることは少ないと感じた保護者が7割。

Q

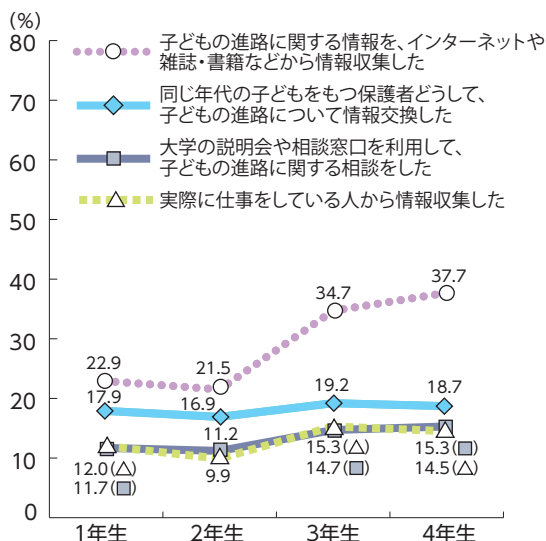
今年度1年間を振り返って、お子様の大学卒業後の進路(就職、大学進学等)について、あなたご自身は次のようなことがありましたか。

図 12-1 進路への関与(学年別)

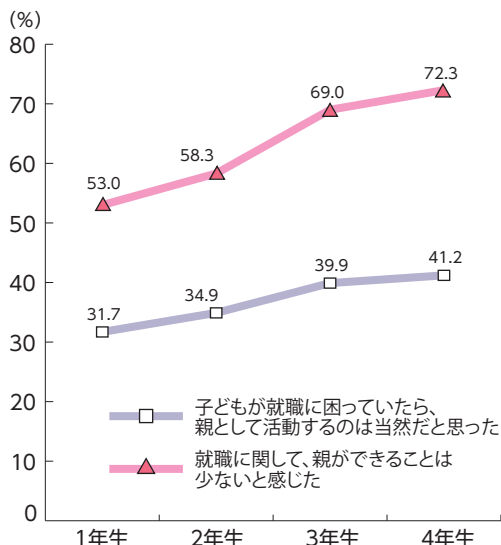
「よくあった」+「ときどきあった」の%



保護者による情報収集



就職への関与についての意識

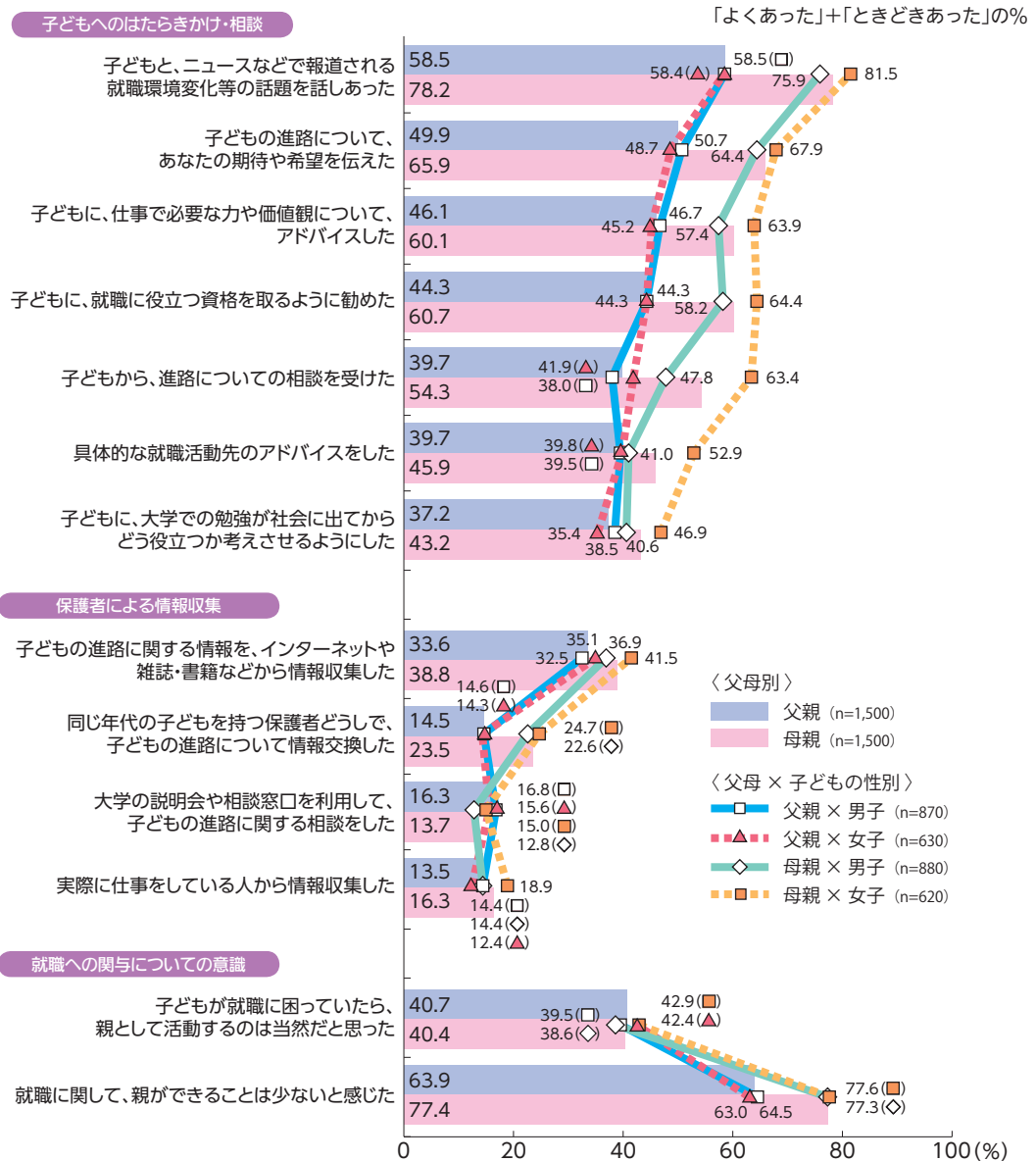


注1) サンプル数は各学年1,500名。

注2) 選択肢は「よくあった」「ときどきあった」「あまりなかった」「まったくなかった」の4段階。

3・4年生の女の子をもつ母親の63.4%が進路について相談を受けているが、男の子だと47.8%。父親は男女とも4割前後。

図 12-2 進路への関与(3・4年生の保護者・父母別・父母×子どもの性別)



就職・進路に関して、インターネットや雑誌などから情報収集をした保護者は1年生で22.9%、4年生では37.7%にのぼる。その一方で、「就職に関して親ができることは少ないと感じた」比率も1年生で53.0%、4年生で72.3%と上の学年ほど高くなっている(図 12-1)。また、保護者の性別では、子どもへのはたらきかけや相談に関する項目は、父母で関与の度合いがかなり異なっており、「母親×女子」で高くなっている(図 12-2)。